

# 故 中 野 昭 一 先生 の ご 逝 去 を 悼 む

弘前学院大学 学長  
聖マリアンナ医科大学 客員教授

吉 岡 利 忠



故 中 野 昭 一 先生

## 中野昭一先生ご略歴

1927 (昭和2) 年 5月22日	東京都中央区日本橋久松町にて出生
1950 (昭和25) 年 3月	東京慈恵会医科大学医学専門部卒業
1951 (昭和26) 年 9月	東京慈恵会医科大学副手 (内科学)
1962 (昭和37) 年11月	東京慈恵会医科大学講師 (生理学)
1967 (昭和42) 年 4月	東京慈恵会医科大学助教授 (生理学)
1967 (昭和42) 年 4月	東海大学教授 (体育学部, 生理・運動生理学)
1974 (昭和49) 年 4月	東海大学教授 (医学部, 生理学)
1987 (昭和62) 年 4月	東海大学保健管理センター所長
1988 (平成元) 年 4月	東海大学スポーツ医科学研究所所長
1995 (平成7) 年 4月	日本体育大学教授
1995 (平成7) 年 4月	東海大学医学部名誉教授
1998 (平成10) 年 4月	日本体育大学大学院体育科学研究科長
2000 (平成12) 年 4月	日本体力医学会名誉会員
2002 (平成14) 年 3月	日本体育大学定年退職
2002 (平成14) 年 4月	日本体育大学名誉教授
2006 (平成18) 年11月	瑞宝中綬章受章

中野昭一先生は、先生がご卒業された東京慈恵会医科大学の附属病院で2014 (平成26) 年 3月 7日 (金) の早朝86歳でご逝去なさいました。

先生は、これまでに日本体育大学名誉教授、東海大学名誉教授、日本体力医学会名誉会員、日本運動生理学会名誉会員、日本病態生理学会名誉会員、日本宇宙航空環境医学会名誉会員など多くの称号を受けておられました。日本体力医学会の理事としては1985 (昭和60) 年から2000 (平成12) 年まで5期をお勤めになり、

庶務委員長、評議員選考委員長などを歴任されておりました。また、臨床医学、基礎生理学、病態生理学、運動生理学、宇宙医学、スポーツ医学関係の多くの学会で活躍し、学生、大学院生への教育はもちろんのこと各分野の研究者の育成に力を注いでいたことは、私ども日本体力医学会会員の周知するところであります。私は、東京慈恵会医科大学学生時代および同校の第二生理学教室から東海大学医学部生理学教室員として、中野先生のご指導を30年近くにわたり受けてきま

した。ここに先生のこれまでのご功績を記し、先生のご冥福をお祈りする次第であります。

先生の業績は多方面に亘ります。まず植物生理学分野の研究として、膵臓グルカゴンの血糖上昇作用の働きを実験的に確かめ、血糖を下げるインスリンと協調的に作用して筋肉グリコーゲンを増加させてエネルギー産生に働いていることを本邦で初めて実験的に検証しました。この研究のきっかけは恩師である東京慈恵会医科大学生理学教授故杉本良一先生および代謝・内分泌専門の同大学内科教授阿部正和先生（現学校法人慈恵医大顧問・東京慈恵会医科大学名誉教授）の指導によるものでした。この実践的な研究が基盤となり肥満の研究に取り組むことになり、多くの学術論文を残されました。

また、スポーツ競技種目における動作分析の研究は東海大学、日本体育大学で積極的に進められました。体育学、運動生理学、トレーニング科学、リハビリテーション医学、スポーツ医科学分野において安全かつ安心して運動するために、運動愛好者のみならずエリートスポーツ選手の実践的トレーニングに極めて有用であることに着目し、3方向の加速度計をジャイロスコープ内に埋め込むという新しい発想の下に分析機器を開発しました。加速度、偏位の動きと心電図・筋電図波形などを同時に記録しそれらの分析結果を運動指導に役立てたこともその分野で注目されました。これら一連の研究は文科省からの多額の科学研究費補助金によって行われました。

さらに消化吸収の分野では、実験動物から摘出した翻転腸管を用い栄養素の吸収に関する実験が糖代謝、アミノ酸代謝、脂質代謝の観点から行われ多くの業績を上げられました。実験動物はアロキサン糖尿病モデル、スポーツ医学の面からさまざまなタイプの運動負荷を与えた動物モデル、吸収状態を見るため腸管粘膜に侵襲を加えた動物モデル、その他ありとあらゆる実験モデルを考案し、各種栄養素の吸収変動から代謝過程を分析し、それらの研究結果はスポーツ現場の栄養指導に多大に寄与しました。

体育学や体力医学の研究では、運動量や運動タイプを変えて心拍数などの循環系分析を行う実験系が一般的ですが、心拍数を一定値に規定した運動負荷を用いるという極めてユニークな方法を編み出しました。心拍数変動をトレッドミルの速度にフィードバックし、運動による心循環機能の負担を軽くすることで心疾患のリハビリテーションなどに応用するという画期的な研究も注目されました。また、リハビリテーションを目的として、NMR-T2画像から運動による下肢筋動員の研究は現在も継続されています。

このような多方面にわたる研究内容から、中野研究室には多くの学生、基礎医学者、臨床医、医療機器関係者らが集まり、東京慈恵会医科大学、東海大学医学部・体育学部、日本体育大学の研究室は日々活気にあ

ふれていたことを昨日のように思い出します。先生と一緒に研究した同門からは、私もそうですが多くの教授が輩出されており各分野で活躍しております。紙面の都合上お名前（所属・敬称略）だけを挙げますと、田中越郎、永見邦篤、成澤三雄、岩垣丞恒、山並義孝、三田信孝、宮崎康文、山下泰裕、葛西順一、太田章、五十嵐純、内山秀一、黒川貞生、中原凱文、藤瀬武彦、寺尾保、大野誠、清田寛、鈴川一宏、豊嶋建広らの面々で、その他にも多くの研究者がおります。

さて、中野先生の講義は大変分かりやすく学生に人気があり演習、実習においては面倒見がよく、教室には多くの学生たちが出入りしておりました。このような教室の雰囲気は、一昨年お亡くなりになりました東京慈恵会医科大学名誉教授でありました酒井敏夫先生の影響を強く受けたものと思います。私が生理学に導かれたのも学生班の一人として中野先生のご指導の下、学園祭の時に心循環器系のモデルを作り展示したことが始まりでした。

また、先生は多くの専門書や教科書を上梓しその数は70数冊に上り、図表を多く使いわかりやすい表現で、ある書籍はベストセラーにもなっております。医歯薬・体育・保健医療福祉系の学生の座右の書として利用されております。さらに原著論文は約300編、学会報告は約300近くあります。

中野先生の原稿を執筆するスピードは速く、締め切り期日前には必ず出版会社に送り、校正なども迅速かつ丁寧であり、締め切りを守らない担当者泣かせ先生方が多い中で中野先生ほど出版会社に信用された先生はいないのではないのでしょうか。私も論文や書籍原稿は徹底的に修正・加筆され、それが今の私の貴重な糧となっております。

中野先生はお若いときから細見で長身の体格であり、ネクタイやワイシャツの選び方に趣向をこらしつつダブルのスーツをうまく着こなし、ときにはパイプを煙らしながら颯爽と研究室に入って来られました。中野先生の周りにはお酒を嗜む先生が多く、あまりお呑みにならない先生でしたが酒の席には気さくに参加されておりました。旅行が大好きで国民体育大会開催地で催される日本体力医学会大会の前後には周辺の温泉地で必ず同門会を開催するのが恒例になっておりました。しゃべり方は日本橋出身、江戸っ子のイキそのものであり、先生の歌舞伎の声色も堂にいったもので耳に残っています。

公私ともに接し教えを受け研究に対する正しい姿勢を教えられた多くの方々の心の中に中野昭一先生はいつまでも生き続けることでしょう。心から哀悼の意を表します。安らかに眠りください。合掌。

なお、追悼文作成には東海大学教授寺尾保先生、日本体育大学教授大野誠先生らにご助言を頂きました。感謝申し上げます。

# 体力科学投稿規定

改訂：2014（平成26）年5月16日

## I. 投稿資格

本誌への投稿は本学会の会員・非会員を問わない。また、編集委員会が必要と認めた場合、会員・非会員を問わず投稿を依頼することができる。

## II. 掲載採否・順序

原稿の採否は、原則として2名の査読審査により編集委員会にて決定する。査読者からの意見やコメント等は2ヶ月以内に修正した論文を提出する。期限内に提出されなかった論文は不採択とする。掲載は原則として採択順とする。

## III. 原稿の種類

総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）、教育講座、抄録、その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）とし、原則として和文のみとする。

- A. オンライン投稿：投稿総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）とする。
- B. 依頼総説、教育講座、地方会抄録、その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）は、J-STAGE オンライン投稿審査システムを使用せず、以下のE-mailアドレスへ添付ファイルで投稿する。

hj-tairyoku@turui.co.jp

## IV. 原稿一般規定

ヒトおよび実験動物を対象とした研究の原著、ノート、資料および事例報告（症例報告を含む）では、当該研究施設等の倫理審査委員会あるいは実験動物委員会等の承認を受けた研究であることを「方法」に明記し、承認番号を記載するものとする。掲載された論文の著作権は日本体力医学学会に帰属する。

- A. 使用ソフトウェア：下記の汎用ファイルで作成する。
  - 本文ファイル：Microsoft Office Word
  - 図表ファイル：Microsoft Office Word, Excel, PowerPoint, PDF, JPEG
- B. 用紙設定：和文、英文抄録ともに、用紙設定をA4判とし、上下左右3cmの余白を設け、左側に行番号を入れ、一段組みで10.5ポイント以上の文字でダブルスペースにて入力する。
- C. 用語：日本医学会医学用語管理委員会編「日本医学会用語辞典」英和改訂第3版（2007年出版）、和英（1994年出版）を参照する。
- D. 文体：原稿は、平かな、新かなづかい。当用漢字、外国語、外国固有名詞、化学物質名などは原語、外来語、動植物名などは片かな、数字はアラビア数字を使用する。
- E. 単位及び単位記号：原則として国際単位系（SI）に従うが、当該領域で慣用されているものはこの限りではない。
- F. 図表：説明は英文で適切な題目をつけ、それに続いて図表の内容が理解できる説明を別紙に記載する。
- G. 掲載料及び別刷料：筆頭著者が本学会会員の場合、1編につき刷り上がり6頁までは本学会が負担する。（2,400字が刷り上がり1頁に相当する）
  - 6頁を超過した場合、1頁あたり3,000円の掲載料を著者が負担する。
  - 筆頭著者が非会員の場合、全頁について1頁あたり3,000円の掲載料を著者が負担する。
  - 別刷料は著者負担とする。尚、論文掲載後に正誤表を新たに追加する際、その料金は著者負担とし、1頁につき6,000円の掲載料を負担する。



H. 校正：編集委員会の決定した期日内で、校正はすべて著者の責任により行う。

I. 投稿についての問い合わせ

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1

鶴岡印刷株式会社内 「体力科学」編集事務局宛

〔電話FAX 共通 0235-22-3120〕 E-mail : hj-tairyoku@turui.co.jp

## V. 投稿規定

### A. 原著および総説

1. 論文は独創性に富み、未投稿の研究論文とする。1頁目には、表題、著者名、共著者名、所属機関名、所在地の各（和・英）と、別刷希望部数を明記する。2頁目には英文抄録とKey words、3頁目以降に緒言、方法、結果、考察、引用文献、図の説明の順に記載する（図表の挿入位置は本文に赤で示す）。表および図は本文原稿とは別に作成する。また、表および図の中の文字および説明は、英語表記とする。
2. 原稿には英文抄録（Abstract：研究目的、方法、結果、結論などを含めて250words以内で記載）およびその和訳文を付ける。またランニングタイトルは、和文で20字以内を明記し、Key words（5語以内）を付ける。Key wordsはMedical Subject Headings（国立医学図書館：最新号）を参考にする。
3. 本文中で引用文献に言及した場合、文章の右肩か著者名の右肩に、末尾の引用文献に照応する番号を付ける。3人以上の共著の場合は“ら”“et al.”を用いる。

例1：長島<sup>1)</sup>によれば……………

例2：手島と角田<sup>2)</sup>によれば……………

例3：馬ら<sup>3)</sup>によれば……………

### 4. 文献表の作り方

- 1) 引用文献の記載順序は本文中の引用順に整理して、本文中の番号と照合する。文献表の著者名は“ら”、“et al.”と省略せず、全著者名を列記する。人名の記載順は姓を先にして名を後にする。本文中に引用されていない文献は、文献表に記載しない。

### 2) 雑誌から直接引用する場合

番号、著者名：論文表題、掲載雑誌、巻：頁（始頁－終頁）、西暦年数の順に記す。

例1：長島未央子：長時間自転車運動が鍛練者の酸化ストレス度及び血中ビタミン濃度に及ぼす影響, 体力科学, 60: 279-286, 2011.

例2：手島貴範, 角田直也：身長相対発育からみた男子サッカー選手の大腿部筋厚発育とボールキック能力の発達, 体力科学, 60: 195-205, 2011.

例3：馬 佳濛, 柴田 愛, 村岡 功：インターネットを利用する中国成人における推奨身体活動充足に関連する社会人口統計学的要因, 体力科学, 60: 185-193, 2011.

### 3) 単行本から引用する場合

番号、著者または編者名、章名、書名（章名がある場合は書名をイタリック体にする）、版数（括弧に入れる）、編者名（章著者がある場合）、発行所、発行所の所在地、引用頁、西暦年数の順に記す。

例：彼末一之, 中島敏博. 4. 神経機構 I - 温度求心路と体温調節「中枢」-, 脳と体温 - 暑熱・寒冷環境との戦い -, 共立出版, 東京, 72-97, 2000.

### 4) 訳本から引用する場合

著者名, (訳者名), タイトル, 出版社, 地名, ページ, 出版年の順に記す。

例：アメリカスポーツ医学協会編（日本体力医学会体力科学編集委員会監訳）、運動処方の指針-運動負荷試験と運動プログラム-原著第8版, 南江堂, 東京, 57-108, 2011.

#### 5) 欧文の雑誌と単行本から引用する場合

- 例 1 : Steinberg SF. The molecular basis for distinct  $\beta$ -adrenergic receptor subtype actions in cardiomyocytes. *Circ Res* 85: 1101-1111, 1999.
- 例 2 : Bajotto G, Shimomura Y. Determinants of disuse-induced skeletal muscle atrophy: Exercise and nutrition countermeasures to prevent protein loss. *J Nutr Sci Vitaminol* 52: 233-247, 2006.
- 例 3 : Sato S, Nomura S, Kawano F, Tanihata J, Tachiyashiki K, Imaizumi K. Effects of the  $\beta_2$ -agonist clenbuterol on  $\beta_1$ - and  $\beta_2$ -adrenoceptor mRNA expressions of rat skeletal and left ventricle muscles. *J Pharmacol Sci* 107: 393-400, 2008.
- 例 4 : Shimomura Y, Murakami T, Nakai N, Nagosaka M. Exercise and metabolism in muscle cells: Molecular aspects of energy metabolism during exercise and adaptation to exercise training. *In: Exercise, Nutrition, and Environmental Stress Vol.1* (Nose H, Gisolfi CV, Imaizumi K, eds.), Cooper Publishing Group, LLC., MI, USA, 89-116, 2001.

#### B. ノート，資料および事例報告（症例報告を含む）

原著及び総説の投稿規定に準ずる。但し，ノートおよび事例報告（症例報告を含む）は原則として刷り上がり4頁以内，図表は2点までとする。

#### C. 依頼総説および教育講座

1. 依頼総説および教育講座は，体力科学編集委員会の依頼による。
2. 原稿について
  - 1) 依頼原稿は刷り上がり10頁以内を原則とする。
  - 2) いずれの原稿も表題，著者名，所属などは体力科学投稿規定V-Aに準じて英文名を附す。教育講座では必ずしも英文抄録を必要としないが，依頼総説では体力科学投稿規定V-Aに準ずる。

#### D. 体力科学6号（大会号）の抄録

1. 演題申し込みと同様，学会大会のホームページ上で登録する。
2. 形式，提出日等は大会要項に従う。原稿は一編840字以内とする。  
※地方会，大会抄録とも提出期限に遅れた場合，本誌に掲載されない。

#### E. 地方会の抄録

原稿は，一編900字以内で表題，著者名，所属，本文を和文で記す。

#### F. その他（Letter to the Editor，議事録，学会記事，会報など）

※Letter to the Editorの項では，本誌に掲載された原著，総説，その他の掲載内容についての質問，疑問，コメント等を編集委員会に寄せ，それに対する回答を執筆者に求め，その内容を掲載する。質問者も回答者もすべて実名とする。

### VI. 倫理・利益相反

- A. 人体ならびにヒト組織を対象とした科学研究を取り扱う論文では，その実験は1964年のヘルシンキ宣言（<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/>）で承認された倫理基準，または臨床研究の倫理基準（<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/index.html#4>）に従って実施されなければならない。また，ヒト遺伝子を取り扱う実験は，日本政府のヒトゲノム・遺伝子解析研究（[http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito\\_genom.html](http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito_genom.html)）に従ってなされなければならない。日本体力医学会編集委員会では，所属機関の倫理委員会の承認を得た後に実施された研究に限ってその論文の投稿を受け付ける。当該研究がこれらのガイド



ラインに従って実施されたことを投稿論文内に明記し、さらに所属機関の倫理委員会が発行した承認書の承認番号を論文中に記載するものとする。

- B. 実験動物を対象とした研究においては、わが国の動物実験関連法規・指針を遵守して実施されなければならない。投稿論文内にはその旨を必ず明記し、所属機関の実験動物委員会等が発行した当該動物実験承認書の承認番号を論文中に記載するものとする。
- C. 総説、原著論文、それに準ずる論文を投稿する際、日本体力医学会における事業遂行に係る利益相反（COI）に関する指針（[http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi\\_guideline.htm](http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi_guideline.htm)）に基づき、該当する場合には（「自己申告による利益相反申告書」（別紙様式1））に記入し、併せて編集事務局に提出するものとする。定められた利益相反状態に該当しない場合は、論文末尾に「利益相反自己申告：申告すべきものはなし」と記載するものとする。

附：投稿論文の種類は概ね次の基準によって分類される。

- 1) 原著：独創的研究で新しい事実と価値ある結論を有するもので、体力科学・スポーツ医学の進歩に貢献するものとする。
- 2) ノート：原著より短い、新しい事実や価値ある結論が含まれるものとする。
- 3) 資料：適切な分析法または調査法による有用な結果が含まれ、公表することにより体力科学・スポーツ医学の分野において会員の研究・実践活動に有用な情報を含むものとする。
- 4) 事例報告(症例報告を含む)：運動・スポーツ等による体力医学・スポーツ医学の立場からみた様々な効果または治療・指導効果等の事例報告。

## 日本体力医学会定例理事会（2014年1月）議事録

日時：2014年1月17日（金）午後5時30分～7時30分

場所：AP東京八重洲通り 11F Mルーム

議長：下光輝一理事長

出席者：下光輝一、荒尾 孝、碓井外幸、小野寺昇、  
勝村俊仁、栗原 敏、定本朋子、鈴木政登、  
武政 徹、竹森 重、田中喜代次、田中宏暎、  
田畑 泉、永富良一、西平賀昭、浜岡隆文、  
山内秀樹、吉岡利忠（各理事）、小林康孝（監事）、  
菅原正志（第69回大会長・長崎）、  
田島文博（第70回大会長・和歌山）

欠席者：大野 誠、川久保清、川原 貴、坂本静男、  
下村吉治、福林 徹、福永哲夫（各理事）、  
能勢 博（監事）

### 【審議事項】

#### 1. 前回議事録の承認

理事会開催中に各自で議事要旨の内容確認を行い、訂正等がある場合は申し出ていただくこととし、理事会終了後に承認とすることとした。また、議事録署名人として栗原、定本両理事が指名された。

#### 2. 日本体力医学会健康科学アドバイザー新規申請者について（碓井称号委員長）

第24回スポーツ医学研修会の修了試験合格者（23名）と日本体力医学会健康科学アドバイザーへの申請者（8名）については前回理事会で承認済であること、今回追加で7名から申請書類が提出されたとの報告があった。追加申請者7名の申請書類一式を確認した結果、資格は満たしていると報告があり、承認された。

#### 3. 利益相反運用規程（案）について（小野寺総務委員長）

利益相反運用規程（案）を作成するワーキンググループを、坂本利益相反委員長&倫理委員長・鈴木編集委員長・小野寺総務委員長・町田総務委員のメンバーで進めていきたいとの提案があり、承認された。

また、本規程（案）については、作成が出来次第、メール審議にて承認を得たいとの提案があり、了承された。

#### 4. 理事長推薦理事について（下光理事長）

理事長推薦理事として就任した福林理事が現在病氣療養中であり、理事の継続が難しいため辞退をしたいとの申し出があったと報告があった。健康上の理由の為、無理強いできないと判断し、福林理事の理事辞退を了承した。代替りの理事長推薦理事として鳥居俊先生（早稲田大学スポーツ科学学術院 運動器スポーツ医学研究室）が指名され、承認された。

#### 5. 法人化について（小野寺総務委員長）

司法書士より、定款記載の購読会員は会員の要件に適合しないとの指導を受けたと報告があった。指摘された内容は、丸善で体力科学誌及びJPFISM誌を購入している個人および団体を購読会員と呼んでおり、購入時に消費税を含めて販売をしているため、税を納めている方を会員とは呼べないという内容であった。検

討した結果、購読会員という名称を定款・細則から削除する事が承認された。次回以降の総会資料には参考情報として、購読している人数を記載することとした。

また、設立時理事の部分の福林理事の代わりに、鳥居理事を新たに記載する事が承認された。

### 6. その他

- ・今後の理事会開催のスケジュールについて（小野寺総務委員長）

今後の理事会開催のスケジュールは、5月・8月・9月・11月・2月に開催する方向で検討していると状況が報告された。

次回理事会は、2014年5月16日（金）で決定した。

### 【報告事項】

#### 1. 各種委員会報告

##### 1) 総務委員会（小野寺委員長）

- ・地方会保持の財産

法人化に関連し、地方会で保持している財産を一旦本部会計に全て取り込む（目的を持った使い方名称の科目を新設し、そこで管理を行う）ために、各地方会に連絡をすると報告があった。

- ・税金対策

法人化後には税金が発生してくるため、税金対策を検討していくと報告があった。

- ・諸謝金（海外招聘）

大会時に海外の関連学会の演者を招聘する際の謝金規程案を、次回5月理事会に提示すると報告があった。

- ・会員の減少

配布資料により、過去3年間の月別会員の入退会のグラフが提示され、会員が減少している理由としては、団塊の世代の方々が退会をしているのが原因と報告があった。理事会として、会員の減少を防ぐ方法や入会（会員）のメリットを検討していくこととなった。

- ・ロゴマーク

検討中である学会ロゴマークを、企業や大学のデザイン学部に依頼し、次回5月理事会で集まったロゴを提示、承認してもらう予定であると報告があった。

##### 2) 編集委員会（鈴木委員長）

- ・抄録集

体力科学6号に掲載していた抄録集を、これからはJPFISMに英語で投稿してもらうのはどうかとの提案があった。その他、今まで通り抄録集（6号）は日本語で投稿、日本語もしくは英語のどちらか好きな方で投稿してもらう方法と3つの案が出たが、結論には至らなかったため、継続審議となった。

- ・編集事務局の白幡裕子氏の定年退職

1月25日に体力科学の編集に30年と、長年携わっていただいた鶴岡印刷株式会社の白幡裕子氏が定年退職を迎えるにあたり、学会から感謝状を

贈りたいとの提案があり、承認された。粗品と併せて後日、お渡しすることとした。

- ・編集事務局管理の口座  
編集事務局で管理している口座を、法人化を機に本部事務局で管理してはどうかと提案がされた。法人化に関連する案件のため、総務委員会で検討することとなった。
- 3) 学術委員会
- ・プロジェクト研究委員会（田中（喜）委員長）  
テーマの変更や研究費の増額、他施設協力を見直してはとの意見が委員会内に出ているが、意見がまとまりきれていないため、次回理事会で改めて提案を行うと報告があった。
- 4) 評議員選考委員会（吉岡委員長）
- 体力科学誌に評議員募集のチラシを挟み、広く募集をかけると報告があった。
- 5) 男女共同参画推進委員会（田畑委員長）
- 長崎大会で男女共同参画推進委員会企画のシンポジウムをプログラムに取り組みでもらったと報告があった。また、評議員選考委員会に、女性の連続7年は難しいので評議員選考内規の見直しの検討をしていただけないかと依頼された。
- 6) 渉外委員会（永富委員長）
- ・ECSS（ヨーロッパスポーツ科学会議）  
ECSS交流事業は学会HPで公募をしていると報告があった。また、長崎大会でECSSとの交流シンポジウム Exercise is Medicine (EIM)<sup>®</sup>を開催できるよう打診中であると報告があった。
  - ・国内との交流事業  
日本動脈硬化学会から打診があり、包括的リスク管理を国民に分かりやすくかつより実践的なものに仕上げていくために、関連学会と十分協議した上で統一の「包括的リスク管理」を検討する場として、9学会合同会議が1月20日に開催予定であり、下光理事長と永富渉外委員長が参加すると報告があった。これを機に学会大会で関連学会との合同シンポジウムを開催する事を検討していく予定であると報告があった。
  - ・AFSM（アジアスポーツ医学会）  
1月11日に香港でAFSMの理事会が開催され、勝村理事と坂本理事が参加したと報告があった。第33回 FIMS（国際スポーツ医学会）が6月18日～21日にカナダのケベックシティで開催される事、第13回 AFSMが10月20日～23日に中国の北京で開催される事、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせて、2020年に東京でAFSMが開催できないかとオファーされたと報告があった。東京でAFSMが開催される事になった

際は、学会としてどういうスタンスで臨むか、他の関連学会との連携や費用面も含めて今後検討していく必要があるということが確認された。

#### 7) 広報委員会（武政委員長）

学会HPリニューアルの進捗状況として、下村理事から提案された会員専用ページのマイページボタンを組み込む事を予定していると報告があった。会員専用ページを作成しても、現状、住所変更や会費納入状況の確認しかできないため、今後会員への情報提供の場として有効活用できないか、理事会で検討していくこととなった。

#### 2. 第68回大会（東京）の大会報告について （栗原第68回大会長）

東京大会の支払いが終わっていない経費があるため、次回理事会で決算報告を行うと説明がされた。現状の見込みでは約100万円黒字となり、学会に返金する予定であると説明がされた。

#### 3. 第69回大会（長崎）の準備状況（管原第69回大会長）

体力科学63巻1号に大会案内（第2報）の掲載が予定されていると報告があり、併せてプログラム関係、参加費、各種登録、演題募集等について報告があった。  
会期：2014年9月19日（金）～21日（日）  
会場：長崎大学文教キャンパス（長崎市）

#### 4. 第70回大会（和歌山）の準備状況 （田島第70回大会長）

大会の準備状況等について報告があった。  
会期：2015年9月18日（金）～20日（日）  
会場：和歌山県民文化会館、  
ホテルアバローム紀の国（和歌山市）

#### 5. その他

- ・訃報：第66回大会長（山口）の江橋先生（下光理事長）  
2014年1月15日に第66回大会長（山口）の江橋博先生（東亜大学客員教授）がお亡くなりになったと報告があった。お通夜及び葬儀・告別式については、詳細が分かり次第事務局より役員に通知し、学会からは弔電及び供花を送ることとした。
- ・2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて（下光理事長）  
2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、プレサイエンティフィック・コングレスの実現に向けて、理事会中心にワーキンググループを作成し、他学会や国際学会を巻き込んだ形で実現する方法を模索していきたいとの提案がされた。



## 「第31回筋肉の会」・「第31回筋電図の会」のご案内（第2報）

日時：平成26年9月19日（金）  
第69回日本体力医学会大会初日 18:00～20:00

会場：「筋肉の会」長崎大学学会大会会場・環境442  
「筋電図の会」長崎大学学会大会会場・環境441

演題：

「筋肉の会」

1. 塩谷 孝夫 先生（佐賀大学医学部生体構造機能学講座器官・細胞生理学分野）  
「心筋Na/Ca交換の、細胞膜CaポンプとローカルCaによる調節」
2. 本橋 紀夫 先生（東京都健康長寿医療センター研究所 老年病態研究チーム）  
「microRNAによる骨格筋制御」

「筋電図の会」

1. 青木 朋子 先生（熊本県立大学 環境共生学部）  
「手指の微細運動制御機構」
2. 上原 一将 先生  
（国立精神・神経医療研究センター）  
「Interhemispheric interactionと随意運動の関係について」

参加費：1,000円（事務連絡費、会場費、AV機材借用費等）  
研究会の当日、受付にて申し受けます。

懇親会：研究会終了後に「筋肉の会」と「筋電図の会」の合同で行います。（懇親会のみへご参加頂ける方も大歓迎です）。場所等は当日お知らせ致します。会費は4,000円程度を予定しています。

世話人：

「筋肉の会」

東京慈恵会医科大学分子生理学講座体力医学研究室  
山内秀樹  
〒182-8570 東京都調布市国領町8-3-1  
TEL：03-3480-1151 内線2445, FAX：03-3480-4591  
e-mail：yamauchi@jikei.ac.jp

「筋電図の会」

千葉大学教育学部保健体育教室 小宮山伴与志  
〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33  
TEL：043-290-2621, FAX：043-290-2519  
e-mail：komiyama@faculty.chiba-u.jp

## 第22回日本発汗学会総会のご案内

1. 会 頭：松本孝朗（中京大学スポーツ科学部スポーツ健康科学科教授）
2. 会 期：平成26年9月17日（水）～18日（木）
3. 会 場：長崎大学文教キャンパス  
グローバル教育・学生支援棟 4階  
文教スカイホール  
〒852-8521 長崎市文教町1-14

4. プログラム：

1) 特別講演

- 1 発汗機能の成長と老化  
井上芳光先生（大阪国際大学）
- 2 NTT東日本関東病院ペインクリニック科における多汗症治療 胸腔鏡下胸部交感神経節切除術（ETS）を中心に  
安部洋一郎先生（NTT東日本関東病院）

2) 一般演題

3) 若手発表（学部生、大学院生、概ね40歳未満の方が対象。共同演者を除く参加者の投票により優秀者を表彰します）

4) 市民公開講座 「熱中症にならないために」

- 1 熱中症とは 松本孝朗（中京大学）
- 2 熱中症の実態 中井誠一（京都女子大学）

5) 機器展示

5. 演題募集：一般演題、若手発表を募集いたします。  
演題登録先：t-mat@sass.chukyo-u.ac.jp

「一般演題、若手発表の区分」「演題名」「所属」「著者名（共著者を含む）」「連絡先（住所・電話番号・FAX・メールアドレス）」をご記入のうえ、「抄録本文（テキストまたはMS-Word）800字以内」を添付ファイルで上記アドレスにお送り下さい。

演題申し込みは、メールでお願いします。また、採否等もメールでお知らせします。

なお、メールでの登録が困難な場合は総会事務局までご連絡下さい。

6. 総会事務局：〒470-0393 豊田市貝津町床立101  
中京大学スポーツ科学部 松本孝朗  
TEL：0565-46-6656  
FAX：0565-46-1272  
E-mail：t-mat@sass.chukyo-u.ac.jp

7. 演題締め切り：平成26年6月20日（金）

8. 応募資格：演者並びに共同演者は日本発汗学会の会員に限ります。非会員の方は下記の学会事務局まで連絡のうえ、入会の申し込みをお願いいたします。

9. 日本発汗学会事務局：

〒683-8503 鳥取県米子市西町86  
鳥取大学医学部適応生理学分野内  
日本発汗学会事務局  
TEL：0859-38-6043 FAX：0859-38-6043  
E-mail：hakkan-gakkai@med.tottori-u.ac.jp

## 公益財団法人 上原記念生命科学財団 平成26年度研究助成および海外留学助成等の交付対象者募集

### 1. 研究助成募集要項

- (1) 助成対象課題－生命科学，特に健康の増進，疾病の予防および治療に関する次の諸分野の研究
  - (イ) 東洋医学, 体力医学, 社会医学, 栄養学, 薬学一般
  - (ロ) 基礎医学（上記以外）
  - (ハ) 臨床医学（上記以外）
- (2) 助成対象者－上記研究に意欲的に従事する日本在住の研究者で「3. 応募方法その他 (2) 推薦者」の推薦を受けた者  
(注) 研究推進特別奨励金は，医学部（大学院医学研究科）と薬学部（大学院薬学研究科）に限る
- (3) 助成の種類および金額
  - (イ) 研究助成金
    - ◇年齢不問，単独研究でも共同研究でもよい
    - ◇1件 500万円，助成件数 90件
  - (ロ) 研究奨励金
    - ◇若手研究者で昭和52年4月1日以降出生の者，但し医学部等6年制の学部卒業者は昭和50年4月1日以降出生の者
    - ◇1件 200万円，助成件数 90件
  - (ハ) 研究推進特別奨励金
    - ◇医学部（大学院医学研究科）または薬学部（大学院薬学研究科）において平成24年4月以降に独立した研究室またはチームを立ち上げた，昭和44年4月1日以降出生の日本在住の教授（特任教授，准教授は除く）
    - ◇1件 400万円，助成件数 10件
- (4) 助成金の使途－研究に要する物品の購入その他研究推進に必要な費用とする

### 2. 海外留学助成（上原フェローシップ）募集要項

- (1) 助成対象者－研究助成と同じ課題の研究を行う研究者で次の条件を満たす者
    - (イ) 研究助成と同様に「3. 応募方法その他 (2) 推薦者」の推薦を受けた者
    - (ロ) 原則として平成27年1月1日～12月31日の間に新たに海外留学に出立する者  
但し，事情によっては年内に出立する者および海外留学中の者（条件あり）も対象とする
    - (ハ) 1年間以上の海外留学を受け入れる大学等学術研究機関が決定している者
  - (2) 助成の種類及び金額
    - (イ) リサーチフェローシップ
      - ◇研究奨励金と同じ年齢要件を満たす若手研究者
      - ◇博士号を有するか，またはそれと同等以上の研究業績を有する者
      - ◇1件 400万円以内，助成件数 約80件
    - (ロ) ポストドクトラルフェローシップ
      - ◇昭和56年4月1日以降出生の者，但し医学部等6年制の学部卒業者は昭和54年4月1日以降出生の者
      - ◇助成期間中無収入の者
      - ◇博士号を有するか，または平成27年4月までに取得見込の者
      - ◇1件 400万円以内，助成件数 約40件
- 尚，海外留学助成（イ）（ロ）の選考段階での成績

優秀者（若干名）に対し，2年間の助成を行う

### 3. 応募方法その他（研究助成および海外留学助成共通）

※研究推進特別奨励金のみ推薦者が異なる

- (1) 応募方法－当財団ホームページの手順に従い応募する
  - (2) 推薦者－
    - (イ) 大学関係
      - 総合大学：大学院研究科長（または学部長）<sup>(注1)</sup>
      - 単科大学：学長
      - 財団理事会が承認した大学附置研究所等：代表責任者
      - 大学共通組織<sup>(注2)</sup>（研究センター，研究施設等）：学長
    - (注1) 薬学研究科，薬学部等同一の研究科，学部の場合はいずれか1件の推薦とする
    - (注2) 原則研究センター長，施設長および病院長は推薦者となることできない
  - (ロ) 大学以外の研究機関：
    - 当財団理事会が承認した研究機関の代表責任者
    - ※研究推進特別奨励金：大学長（1大学1件の推薦とする）
- (3) 応募期間－平成26年6月10日～平成26年9月5日
- (4) 選考方法－当財団選考委員会において選考し，理事会で決定する
- (5) 採否の通知－平成26年12月中旬に採択者をホームページに掲載の上，採択通知を郵送する
- (6) 助成金の交付－平成27年1～3月の間に贈呈する

### 4. その他の助成金

#### (イ) 来日研究生助成金

- ◇わが国の大学院の博士課程（前期/後期）に入学するために来日し，生命科学，特に健康の増進，疾病の予防および治療に関する研究を行う研究者で次の条件をいずれも満たす者（申請時点で大学院入試を受験していない者および合否が未定の者でも応募可とするが不合格となった場合は当財団へ申請取り下げの連絡が必要）
  - (1) 日本以外の国籍を有する者
  - (2) わが国における研究終了後帰国し，教育もしくは研究に従事する者
  - (3) 他の奨学金，助成金を受けていない者
  - (4) 1年以上の研究を行う者
  - (5) 英語検定（TOEIC, TOEFL）または日本語検定を受検した者

◇月額15万円（助成期間は原則2年）助成件数 10件

◇応募期間－平成26年6月10日～平成26年9月5日

◇推薦者－大学長（1大学1件の推薦とする）

※応募方法，選考方法，採否の通知については上記「3. 応募方法その他」と同じ

#### (ロ) 国際シンポジウム開催助成金

◇わが国で開催される国際的な研究集会に対する助成

◇応募期間－平成26年6月10日～平成26年9月30日

※詳しくは当財団ホームページをご覧ください

### 5. 申請書提出先および連絡先

〒171-0033 東京都豊島区高田3丁目26番3号

公益財団法人 上原記念生命科学財団

TEL (03)3985-3500, 8400 FAX (03)3982-5613

E-mail: mail85@ueharazaidan.or.jp

Homepage: <http://www.ueharazaidan.or.jp>

**公益財団法人 明治安田厚生事業団**  
**第31回 若手研究者のための健康科学研究助成**

**研究テーマ：**

- a. 指定課題：運動とメンタルヘルス
  - b. 一般課題：健康増進に寄与する学術研究
- ※いずれか1件のみ応募可

**助成の金額：**総額1,500万円

- a. 指定課題：1件につき100万円,
- b. 一般課題：1件につき50万円

**応募資格：**

- ・健康科学研究に従事し、修士以上の学位を有する方  
(医学・歯学の学士などを含む)
- ・40歳未満かつ所属長または指導教官の推薦を受けた方
- ・第30回(前年度)受贈者は除外

**応募締切：**2014年8月28日(木) 必着

**主催：**公益財団法人 明治安田厚生事業団  
**後援：**日本体力医学会, 明治安田生命保険相互会社  
**選考委員：**

- 委員長 福永哲夫(鹿屋体育大学学長)
- 委員 井澤鉄也(同志社大学大学院スポーツ健康科学研究科長)
- 委員 定本朋子(日本女子体育大学教授)

委員 下光輝一(公益財団法人健康・体力づくり事業財団理事長)

委員 新開省二(東京都健康長寿医療センター研究所研究部長)

委員 永松俊哉(公益財団法人明治安田厚生事業団体力医学研究所所長)

(敬称略・五十音順)

**※応募方法：**

申請書を研究助成ホームページからダウンロードして作成してください  
 作成した「エクセル形式のファイル」と「PDF形式に変換したファイル」をセットにして、事務局宛にメールでお送りください

**※申請書ダウンロード：**

URL: <http://www.my-zaidan.or.jp/josei/>

**※申請書送付：**E-mail: [josei@my-zaidan.or.jp](mailto:josei@my-zaidan.or.jp)**※お問合せ：**

公益財団法人 明治安田厚生事業団体力医学研究所  
 研究助成事務局  
 〒192-0001 東京都八王子市戸吹町150  
 TEL 042-691-1163 FAX 042-691-5559

## 編 集 後 記

編集委員になって約2年、私が主に担当してきた論文は運動疫学研究である。本号にも二つ当該領域の論文が掲載されている。本編集後記では、そうした領域の論文を審査してきた経験に基づいて、今後会員が研究を開始又は少なくとも論文投稿直前に今一度推敲していただきたい点を指摘したい。運動疫学研究を大きく分けると、横断研究、追跡あるいは縦断研究さらに介入研究の3つとなる。本誌では体力科学分野の著者が多いということもあり、これまでのところ横断研究と介入研究がメインであり、追跡あるいは縦断研究は少なかった。そこで、今回は横断研究を取り上げたい。これまでの横断研究論文の多くは、リサーチクエスションは明確に記載されていた。ただ、その多くは「〇〇が〇〇に及ぼす影響を調べた」というものである。しかし、横断研究は「〇〇と〇〇との関連性を調べる」ことはできても、「〇〇が〇〇に及ぼす影響を調べる」ことはできない。「〇〇が〇〇に及ぼす影響を調べた」という表現は、「〇〇と〇〇の因果関係を調べた」と同義である。しかし、横断研究では、たとえ重要な交絡要因の影響を取り除いて「〇〇と〇〇との独立した関係性 (association) を調べた」といっても、〇〇と〇〇との間の因果関係 (causality) を示したということにならない。もちろん横断研究でも因果関係を推論してもよいが、因果の逆転もありうることを考慮しつつ慎重な議論をした上で、最終的な結論を導

く必要がある。特に、高齢者疫学研究では一方向性の因果関係を想定しにくく、矢印の強さに差はあっても双方向の関係性をもつ場合が多い。もう一点は、研究対象者の代表性についてである。多くの場合、研究対象者は標本であり、母集団ではない。研究がどういった母集団を想定するのか、あらかじめ明確にもっていた研究は少なかった。そのため標本の抽出が任意抽出であるものが多く、研究結果を一般化することがなかなかできない。研究の現場ではいろいろな制約があり、無作為抽出法のように標本の代表性を確保する方法をとることが難しいことは重々承知している。そうであるならば、少なくとも標本の偏り (バイアス) については言及し、研究結果の一般化には慎重であってほしい。リサーチクエスションの重大さに大小はあっても、真実を明らかにすることが科学者の使命である。真実に迫るアプローチ法に最善を尽くすとともに、得られた研究結果については、研究方法等の限界を踏まえて謙虚に解釈し、慎重な結論を下す姿勢が大事であると思う。

以上、堅い編集後記になってしまったが、これらの点を踏まえて運動疫学領域の論文を投稿していただければ、採択までの時間が短縮され、採択率も向上すると思われる。

新開省二

---

### The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.63, No.4

---

#### 体 力 科 学 第 63 卷 第 4 号

平成 26 年 7 月 25 日 印 刷

平成 26 年 8 月 1 日 発 行

編集兼発行者 鈴木 政 登  
 発 行 所 一般社団法人日本体力医学会  
 〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4階  
 学会支援機構内  
 TEL : 03-5981-6015 FAX : 03-5981-6012  
 E-mail : jspfsm@asas.or.jp  
 編 集 事 務 局 〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1  
 鶴岡印刷株式会社内  
 TEL : 0235-22-3120 FAX : 0235-22-3120  
 E-mail : hj-tairyoku@turui.co.jp  
 印 刷 所 〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1  
 鶴岡印刷株式会社

---